

### 旭岳源水の製造工場、ノカンに完成



忠別湖遊水広場（ノカン）の隣接地に昨年7月から建設を進めてきた大雪旭岳源水の新ミネラルウォーター製造工場、(株)大雪水資源保全センター（吉田洋一社長）が完成し、1月17日同所で竣工式を行いました。

同センターは、生活協同組合コープさっぽろ（札幌 大見英明理事長）、東川町、東川町農協、(株)東洋実業（札幌 横田正弘社長）の4者が出資。吉田社長、山口敏文コープさっぽろ専務松岡市郎町長、宮崎俊章東川町農協参事ら関係者約20人が出席し新規工場の稼働を祝いました。

松岡町長は「カルシウム、マグネシウム成分が多く、特にマグネシウムの割合が非常に多い健康水。今後世界の認証なども取って付加価値をつけ、しっかりと手を組んで携わっていききたい」と期待を込めました。

初年度は年産約千万本（2リットル容器換算）を計画、このうち約4割がコープさっぽろのプライベートブランド商品、6割は東川ブランドの「大雪旭岳源水」製品として出荷予定。現在流通している旧「大雪旭岳源水」商品がなくなり次第、順次新商品に入れ替わる予定です。



### 旭大生はサンタクロース

旭川大学の学生有志（菊地亮太代表）約30人が昨年12月22、23の両日、町内第三地区の高齢者世帯をクリスマス訪問しました。

手作りのサンタクロースの衣装を着て、独居世帯を中心に16世帯を訪問しました。今年4年目の訪問は、いまや毎年の恒例。この日の訪問に備えて、自宅の玄関前をきちんと雪掻きし、玄関先まで行ったたり

来たりと、心待ちに捨てられる方も増えました。33区、洞正行さん（84）、節子さん（81）のお宅を訪問したのは、韓国・水原大学から留学中のジ・ヘさん（19）、アン・スミンさん（18）ら5人。2人はともに高校生の時に2回、町の日本語研修講座を受講して旭川大学に留学中。手作りのクリスマスカードとクリスマスケーキを持参した一行と「孫が恵庭の大学に通っているんだよ」などと話がはずみました。学生の皆さんは収穫後自宅に貯蔵しているじゃが芋をおみやげにもらって、思わずプレゼントによるこんでいました。

### 新社会人にうれしい門出

1月13日、農村環境改善センターで72人が新社会人の新たな門出を祝いました。

今年の成人式出席者は昨年より20人増えました。農業研修で来町している中国人研修生2人も和服のあでやかな振り袖姿で参加しました。松岡市郎町長は「少しでも無理をし

て生きることが大切。それが東川町を支え、北海道を支え、日本を支える力になる」と門出の言葉を贈りました。「エネルギー関連のエンジニアとして働きたい」「将来の夢は温かい家庭」「発展途上国の開発に貢献したい」などさまざま。中には「2歳と6カ月になる2人の子どもがいます」などと一足早く母親になった新成人2人も。久しぶりの再会に旧交を温めていました。



記念写真はスマートフォンで（農村環境改善センター）

### 防災の誓い新たに初め式



1月5日、大雪消防組合東川消防団（金盛勇松団長）が消防出初め式を行い、災害ゼロの新たな年明けを誓いました。

役場庁舎前に町内5分団88人のうち78人が参列しました。松岡市郎町長、浜辺啓議会議長ら町議会議員の団観開を受け、道道旭川旭岳温泉線（通称基線道路）約5000mを分列行進しました。

午前10時、気温セ氏マイナス7度。ピリッと冷え込んだ晴れ間が広がり、気持ちを引き締めて新たな年の勇姿を披露しました。

出初め式後、東川町農協大ホールで功績者10人を表彰しました。表彰者は

次の通り（敬称略）。

- ◇東川町長表彰
  - 勤続25年 石本和也（第3分団団長）
  - ▼同20年 熊倉靖（第1同）、渡邊澄（第3班長）
  - ▼同15年 加藤義和（第2同）、中西信幸（第3団員）、高倉直樹（同同）
  - ▼同10年 滝本純一（第2班長）
- ◇大雪消防組合管理者表彰
  - 勤続20年 熊倉靖、渡邊澄
- ◇知事表彰、北海道消防協会表彰
  - 勤続20年 熊倉靖、渡邊澄
  - ▼同10年 滝本純一
- ◇東川消防団連合後援会表彰
  - 勤続5年 庄内信明、高橋満、山崎浩敬（以上第4分団員）

### 老人保健センター改装祝って伝統芸能の集い

1月12日、老人保健センターで東川町老人クラブ連合会主催の同センター改修工事竣工記念新春伝統芸能の集いが開かれました。

昨年12月下旬に大ホール全面改装が完成した記念のこけら落としお楽しみ会。新春にちなんで旭川市内から出場した小太酔之助社中が獅子舞を披露して幕開け、葦（あし）の会（旭川）の

### 東川米、新たな飛躍目指して生産者の集い



1月17日、東川町農協で東川町稲作研究会（小林喜一会長）主催の「東川米水稲生産者の集い」が開かれました。

町内の米生産農家約100人が出席しました。小林会長は「昨年は、天候のボイントが水稲の生育に良いほうに作用したが、基本を忠実に守っていくことで生産がぶれないことにつながる」と生産者一同気持ちを新たにしました。

昨年12月、新潟市内の地元中堅スーパーマーケットで成功した東川米の販売実績報告に続いて、この日出席した東急グループ首都圏食品スーパー、東

光食品の三尾諭第一部長は「24年産米は評価の良さで2月ごろには販売終了になる人気ぶり。『おいしい』『北海道ブランド』で昨年暮れから大きな嵐になっている」と絶賛。「今年も東川米を入りたい。東川米の『ゆめぴりか』も売ってほしい」と力を込めました。また上川農業改良普及センター、大竹口嘉教地域第二係長は、今年の米生産に備えて「タンパク含有量6・8%以下の米を生産できるよう情報を提供したい」と低タンパクの高品質米生産に一層の期待を込めました。



皆さんも箏曲（そうぎょく）「春の海」で新春の門出をことほぎました。

町内からは日本舞踊、民謡、詩吟、剣詩舞の各愛好会が出演。旭川市内のアマチュア落語愛好会「旭笑長屋」のナナカマド紅丸さん、狐狸亭道楽さんも出演して

会場の笑いを誘っていました。改装が完成したホールは、畳敷きからカーペットフロアに変わって、椅子に座って観賞できるようにになりました。